

建築・住宅～大河原土木かわら版～

発行 宮城県大河原土木事務所建築班
〒 989-1243 宮城県柴田郡大河原町字南 129-1
電話 0224-53-3918 FAX 0224-53-8090
E-mail okdbkkt@pref.miyagi.jp
URL <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ok-doboku/>

- 住宅の地震対策について
・地震に強い住宅を作るための地震対策のポイント

○住宅の地震対策について

◆地震に強い住宅をつくるための地震対策のポイント

地震の被害から大切な家族、大切なわが家を守るため、建物等を建てる時の地震対策のポイントを紹介します。

(下図は、確認済証の交付の際添付しているパンフレットから抜粋したものです。)

【建物の構造などに関するポイント】

point 1 地盤

できるだけ地盤のよい土地の敷地を選んでください。

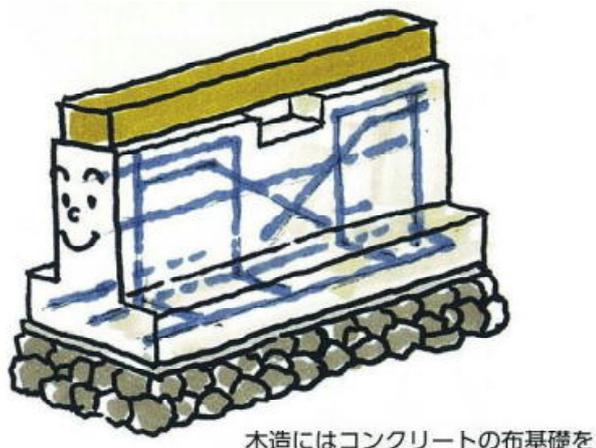
やむを得ず軟弱地盤に建物を作る場合は、地盤改良などの対策をとってください。



point 2 基礎

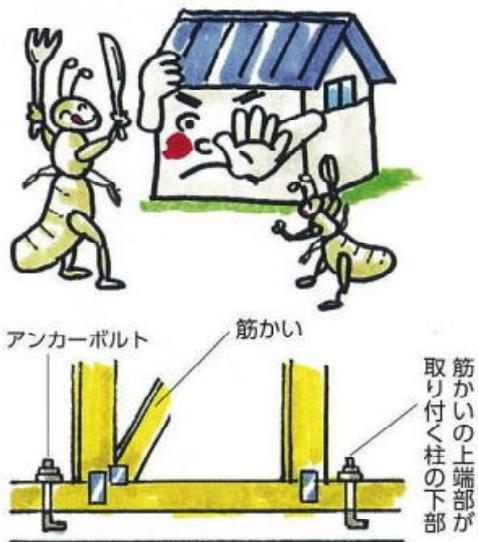
建物の外周部と主な間仕切の下にはコンクリート造の布基礎を設けてください。

地盤の悪い場所では、べた基礎や基礎ぐいとしてください。



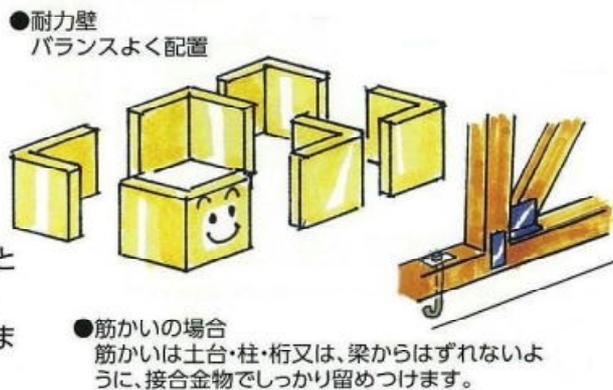
point 3 土台・柱

土台は、耐久性の高い木材を使用しシロアリや腐朽菌などによる劣化に注意してください。暴風時や地震時に、建物が浮き上がったり移動したりすることを防ぐため、アンカーボルトなど金物を使用して土台と基礎を緊結してください。柱はできるだけバランスよく配列し、階高に見合った太さのものとし、2階建ての場合はできるだけ上階の柱は下階の柱の上ののせてください。



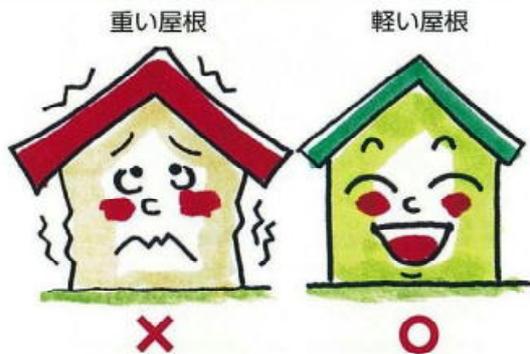
point 4 耐力壁

壁には筋かいや構造面材を用い一方に片寄ることなく、バランスよくして「壁量」を確保してください。建物の平面・立面の形状はなるべく単純でまとまりのよいものとしてください。



point 5 屋根・床

屋根は、鉄板・スレート葺などの軽い材料を使うと地震に有利となります。屋根や床は、火打材・構造面材により水平剛性を確保してください。



大地震により人命に関わる被害が多いのは、家屋が倒壊し、その家屋の下敷きになってしまう場合です。2階建ての家では1階部分が倒壊してしまい、1階に就寝していた方が被害にあった例も報告されていますので、地震に強い住宅を建築してください。

～ お知らせ ～
かわら版のバックナンバーや各種情報を掲載しています。

大河原土木 建築班